



待ち望んでいた『夏』がやってきた! 小国の夏はホントに短いから、思い切り遊ばないと1年間後悔する。だから気の合う仲間達と『海』と『山』でキャンプして、存分にアウトドアを満喫してきたのだ!

文／今修 写真／K-PRODUCTS

Life is short

「夏が来たあ〜!」と喜んでいたのもつかの間、もうお盆だ…。台風が北上しているせいなのか、ムシムシとしているが、ここ小国では明らかに風が涼しくなっている。空を見ると夏の空から徐々に秋の空に変わっていくのがわかる。そして小国町は、これから一雨毎に気温が下がり、冬が近づいてくる…。「ああ、また俺の嫌いな冬が来るのか〜」と気が滅入る…。

自分の基準で言うと、晩夏は8月13日となる。何故かという、お盆休みで里帰りしてきた人達も盆の13日を過ぎると一斉に戻ってしまい、賑わっていた町中も、またいつも通りの寂しい小国町に戻るから。

簡単に夏を終わらせてなるものか! と盆過ぎに海へ行っても、クラゲが多くて思うようにはしゃいではいられないし、海から上がると若干肌寒く感じる。だから毎年8月13日まで精一杯夏を満喫しようと計画しているが、仕事の関係もありなかなか遊びの時間を確保できないのが現状だ。

しかし、今年は強行突破! 会社は8月12日〜15日まで夏休みだが、日頃特別な用事がなければフル出勤していることを理由に自分は10日〜15日まで休みをとった。そしてジムニーにキャンプ用品を積み込み、15日までは家に戻らない覚悟で出発!

それにしてもジムニーの車内は狭いと再認識。そこで絶対に必要な道具だけ積み込み、まずは海を目指した。運良くそれほど混んでいなかったのも、テントを張る場所も楽に確保できた。

スクリーンテントでアブを遮り、大好きなカルピスを片手にタバコをふかす。気が付くと時刻はすでに16時を回っている。周りにはファミリーやカップル達は帰路に着き、浜辺からどんどん人がいなくなっていく…。やっぱり今晚ここにキャンプする人は誰もいないのかあ? とりあえず寝床のテントを張り、暇そうな仲間に電話を掛けまくり、「海で1人キャンプしている」と伝えたら数人が集まってきてくれた! やはりキャンプは人

数が多い方が楽しいぜ! 夜は波の音に包まれながら就寝 zzz。

はしゃぎ過ぎて疲れているはずなのに目覚めは早く、まだ誰もいない海岸でタバコをふかす。朝から最高の気分だ! 海水浴客で混み合う前にテントを畳んで、次のキャンプ地に移動する。

海から山へ!

海を十分満喫したので、今度は山、それも奥の奥へ移動しよう! 今日は仲間数人とキャンプなので、人里離れた山奥でも心細くないからだ!

この山道は秋になると交通量が多くなるのだが、さすがに夏場は誰も通らない。目的地はキャンプ場だが、山奥過ぎて携帯は繋がらないし、トイレも炊事場も使えない。おそらくここにキャンプに来る人間は、我々以外にいないだろう。現場に着いてベース



最初はひとりで寂しかったけど、電話を掛けまくったら暇を持て余していた(?)仲間が集まってくれた。晴れた海でのキャンプは格別だね〜。冷えたカルピスが美味かったな〜。



海辺から一転、翌日は山奥の奥でキャンプ。以前はキャンプ場だったけど、あまりに人が来ないので廃業したのだ。今でもキャンプはできるけど、トイレや炊事場が使えないから誰も来ないみたい(笑)。このワイルドな生活がキャンプの醍醐味ですね! それにしても、夜のアレは本当に居ましたよ(怖)。



となるスクリーンテントを張り、寝床のテントも各自好きな場所に設置。携帯電話も繋がらないことだし、あとは好きなだけ飲んで食って、ゆっくりと贅沢な時間を自分のためだけに使うのだ。携帯電話が2日間も使えなくなるなんてことは記憶に無いので、ちょっと不安も感じたが10分で慣れた(笑)。

使えない携帯電話を車の中にしまい、ふと周りを見渡すとブナの大木が多いことに気が付いた。そういえばこの季節はトビ茸と言う高級キノコが出る時期だ! そしてトビ茸はブナの木の本根元に出るキノコ、条件は揃っている。「トビ茸採りにGO!」。

キノコ採りは宝探し気分で楽しいし、探し当てれば今晚の夕食は豪華になる! とは言え、トビ茸は高級と言われているだけに見つけることは難しい。30分程度ブナ林をウロついたが収穫ゼロ。ベースキャンプに戻って夕食の準備にかかった!

キャンプと言えばバーベキュー! 肉を焼いて焼きそばを作って、そしてカルピスを飲んで! 気の合う仲間とくだらない話をしながら夜は更けていく。

22時を回った頃だろうか、なんか周りの空気が変わってきたような…。あきらかに何かの気配がするが、そんな事を口に出すと周りの仲間達もビビるし、自分も余計に怖くなるから口には出さないようにしていたが、自分の変な挙動に気が付いたM氏が「なんかいるんですか?」と言ってきた。

俺「ん? さっきからあの辺を何かがウロウロしているんだよ」

M氏「ちょちょ、ちょっと〜やめて下さいよ〜」俺「苦笑」

そうこうしていると、落ちるはずのないボ

リタンクがドサッと落ちこちた。これには俺も少々ビビった。感じる気配は攻撃的なモノではないが、テンションは下がった…。

そんなこんなで、気がつくとも24時。「さてそろそろ寝ますか〜」と各自テントに潜り込み就寝。俺はその後も妙な気配で寝る事ができず…。靈感が強いというか? 怖がりと言うか…? でも今まで自分が気配を感じたところは、100%過去に何かがあった場所。だからここでも過去に何かが…うわあ〜今考えても怖い(>_<)。

そして次の日は、再び海でキャンプ! と、6日間山と海で遊び回ったのだ。

【k-pro 秋祭り】の開催が決定!

7月に急遽、思いつきで【k-pro 夏祭り】を開催した。これはどんなイベントだったかと言うと、店内商品全てプライス off とか JB23 純正コンピューター書き換え無料体験コーナーやオフロードコース area-d 無料開放、スーパースージーのユーザー撮影会、k-pro デモカー試乗など盛りだくさん! 他にも様々なパーツメーカーさんが出店したり、中古商品やガラクタ商品のガレージセールで賑わった。

オフロードコース area-d では小野勝重氏のオフロードスクールを3日間に亘って開催。スクールは1時間単位のコースと1日コース、そしてスペシャルな3日間コースの3種類だ。現在日本で開催されているオフロードスクールはとても少ない。ほとんどはショップが開催しているスクールで、純然たるオフロードスクールとして開催しているのは2〜3件ぐらいだと思う。その中でも小野勝重氏が開催するオフロードスクールは定

評のあるスクールで、リピート率は80%以上を誇る。このスクールでは、受講生徒のレベルに応じたきっちとした指導を実践しているのだ。完全なるビギナーに「それでは私に付いて来てくださ〜い!」と言いながらいきなり走り回るようなことしない。まずは言葉にしてわかりやすく説明する。一般的なスクールだと、初心者者をモーグルで走らせた時に途中でスタックすると、指導者のほとんどが「ちゃんとラインを選んで走って下さい!」とアドバイスする。ビギナーからしたら「ラインが分からないからスタックするんですど…。そもそもラインって何ですか? まずはそれを教えてください」と言いたくなるだろう。もちろん小野勝重氏のオフロードスクールは、そんな教え方などしない。なんでスタックしたかを、誰にでも理解できるように言葉で説明する。自分も何度かスクールを開催している時に見学に行ったのだが、「なるほど! 言葉で説明するとこういう表現の仕方になるのか!!」と驚くほどわかりやすかった。自分も初心者の時にこんなスクールの存在を知っていれば、もっと早くオフロードを楽しめていただろうと思う。

ちょっと話はそれだが【k-pro 夏祭り】はドレスアップ志向の方から、リアルオフローダーまで楽しめた3日間だったってこと。お客様と一緒に楽しめたイベントだったので、スタッフも大いに盛り上がり、今度は【k-pro 秋祭り】をやろう! ってことになり、10月8日〜10日の3日間【k-pro 秋祭り】を開催することに決定!! 夏祭り以上に楽しい企画を検討している。「今度は山形名物の芋煮でも作ろうかなあ〜」なんてことも考えているので、是非遊びに来てください。